

Take Free

万能薬？

プラセンタは、

特集◎第一弾【プラセンタ】

あなた自身を取りもどす
不思議なチカラ、プラセンタ。

【内科】頭痛・口内炎・気管支炎・喘息・胃弱・食欲不振・便秘・肝炎・肝硬変・パーキンソン病
 【整形外科】肩こり・むちうち・五十肩・腰痛・ひざ痛・筋肉痛・リウマチ・関節痛・神経痛
 【婦人科】更年期障害・乳汁分泌不全・生理痛・生理不順・無月経・不妊症・冷え性・子宮筋腫
 【皮膚科】アトピー性皮膚炎・肌荒れ・しみ・乾燥肌・脱毛症・皮膚潰瘍・白斑・水虫
 【神経科】自律神経失調症・うつ病・不眠症・拒食症・てんかん
 【泌尿器科】前立腺肥大・夜尿症・性欲低下・膀胱炎・尿道炎
 【眼科】アレルギー性結膜炎・眼精疲労・視力低下・緑内障・角膜炎
 【耳鼻科】アレルギー性鼻炎・耳鳴り・めまい・難聴・メニエール病・臭覚低下
 【歯科口腔科】歯槽膿漏・味覚低下・口内炎・舌炎
 【その他】手術・外傷後の治癒促進、抗ガン剤、放射線後の副作用軽減。

COCO+PRESS

美しいはココ+から。あなたの生活に「美」をプラスする情報誌【ココ+プレス】

vol. 1
2015
S P R I N G

Take Free

胎盤治療の第一人者、「日本胎盤臨床医学会」初代理事長

吉田健太郎 医師 プラセンタ のすべてを語る。

無料
講演

2015.7.8(水) ホルトホール大分 | 1F 小ホール |
講演時間 / pm 19:00~21:00 [開場 / pm 18:30]
■主催 / ココ+プラス(株式会社ココナッツワールド) ■協賛 / 株式会社UTP(ユニバーサルトランスドプランニング)

私は、医師になった時より、薬漬けの医療に疑問を感じておりました。本来あるべき医師の姿を目指し、患者さんの苦痛を楽にさせ、なおかつ効果の高い物はないかと探している時にプラセンタと出会いました。副作用が少なく、様々な栄養・機能性をもつ因子を含み、効果の高いこのプラセンタを一人でも多くの方々に知って頂く事を切に願っております。プラセンタは副作用がほとんど無く、どなたでも始められます。そして、全身・全科・全年齢に効果を発揮する素晴らしいものです。

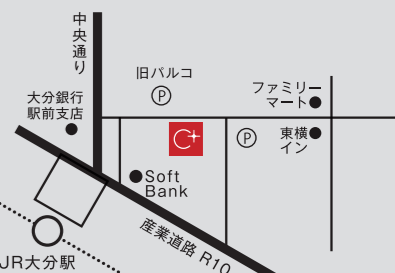


吉田 健太郎(よしだ けんたろう)
 1950年9月 宮城県仙台市生まれ
 74年名古屋大学文学部卒業後、
 教職を経て81年千葉大学医学部に再入学。
 97年吉田クリニック開業。
 西洋医学を基礎に置きつつも
 東洋医学や運動療法、温泉療法などを
 積極的に取り入れ、体に優しい治療、
 形式にとられない治療に取り組む。
 主な著書「胎盤力」
 「女性の不調を解消するプラセンタパワー」
 「プラセンタ療法と統合医療」
 「体にやさしい実践プラセンタ療法」

■受付締切日 / 平成27年6月15日(月)まで
 ■お申込は先着順にてお受け付けさせていただきます。
 定員になりましたら、お申込をお断りさせて頂くことを予めご了承ください。
 ☎ 0120・947・133
 無料公演お申込フリーダイヤル
 【ココ+プラス】

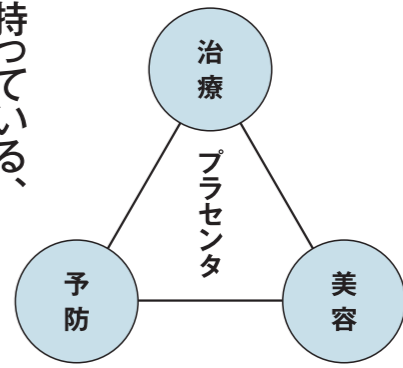
What's? Placenta

COCO+PLUS ココ+プラス
 〒870-0026 大分県大分市金池町2-1-3 レインボービル1F
 フリーダイヤル ● 0120・947・133 tel ● 097・547・8533
 mail ● cocoplus@coconut-world.com
 営業時間 ● am10:00~pm19:00



プラセンタは美容のモノ？

プラセンタは美容のイメージが先行していますが、本来は身体に有効な治療目的で使われているものです。様々な医療の現場で副作用のない治療薬（注射や内服薬）として使用されています。



人間が誰でも持つている、自分で病気や怪我、トラブルを治そうとする力の恒常性維持機能を強化してくれるのがプラセンタです。

プラセンタは、本来のあなた自身を取りもどすチカラ。

■プラセンタは、治療薬（注射や内服薬）として下記の症状に使用されています。（研究要約第7号「一般財団法人日本胎盤臨床医学会より」）

- 【内科】頭痛・口内炎・気管支炎・喘息・胃弱・食欲不振・便秘・肝炎・肝硬変・パーキンソン病
- 【整形外科】肩こり・むちうち・五十肩・腰痛・ひざ痛・筋肉痛・リウマチ・関節痛・神経痛
- 【婦人科】更年期障害・乳汁分泌不全・生理痛・生理不順・無月経・不妊症・冷え性・子宮筋腫
- 【皮膚科】アトピー性皮膚炎・肌荒れ・しみ・乾燥肌・脱毛症・皮膚潰瘍・白斑・水虫
- 【神経科】自律神経失調症・うつ病・不眠症・拒食症・てんかん
- 【泌尿器科】前立腺肥大・夜尿症・性欲低下・膀胱炎・尿道炎
- 【眼科】アレルギー性結膜炎・眼精疲労・視力低下・緑内障・角膜炎
- 【耳鼻科】アレルギー性鼻炎・耳鳴り・めまい・難聴・メニエール病・臭覚低下
- 【歯科】口腔科】歯槽膿漏・味覚低下・口内炎・舌炎
- 【その他】手術・外傷後の治療促進、抗ガン剤、放射線後の副作用軽減。

これまでのクスリ概念を超えた

万能薬かと言えらるほどのチカラを秘めています。

何を基準に選べばいいの？ 気になる副作用と安全性。

インターネット等で多くのプラセンタ商品が出回っている中、興味はあるけれど何を選べばいいのかわからないという方が多くいらっしゃいます。また、プラセンタ配合などと表示しているだけで、プラセンタの量や品質について不明な粗悪品が市場に流れている事実もあります。体内に服用するものですから安全で信頼のおける商品を選ばなければなりません。

■プラセンタを選ぶ際の大切な基準

プラセンタエキス純末の配合量が重要です。

プラセンタエキスとはプラセンタの液体状の原液のことです。約85%が水分と言われており、たくさんの水分と不純物が含まれます。この水分と不純物を取り除いたものがプラセンタエキス純末（プラセンタエキス）の15%程度です。この純末換算した配合量が重要になります。

（財）日本健康・栄養食品協会の認定マークが品質の目安です。

過剰な広告や粗悪品など、様々な品質のプラセンタ商品が市場に出回る中、JHFA（ジャファ）「財団法人日本健康・栄養食品協会」がプラセンタの安全性と配合量の規格基準を定めました。これからはJHFAマークが品質の高いプラセンタを選ぶ上での目安となります。



プラセンタって何？

プラセンタは日本語で「胎盤」という意味です。健康食品や化粧品で「プラセンタ」と呼んでいるのは胎盤そのものではなく、胎盤から細胞分裂する成長因子（グロースファクター）や栄養素を抽出したモノのことをいいます。

たったひとつの細胞（受精卵）を約10ヶ月で赤ちゃんにまでつくり上げてくれる胎盤のチカラ。

「胎盤」は妊娠中に一時的につくられる臓器で出産後、体外に排出されます。1つの卵子と1つの精子が出会って受精卵となり、その受精卵が2つに分かれ子宮に着床した方が「胎盤」となり、もうひとつが「胎児」となり、この胎盤と胎児がサイト（へその緒）で結ばれます。1個の受精卵をわずか10ヶ月で平均3キロの赤ちゃんにまで成長させるのは胎盤の働きが大きく、その胎盤には、胎児の成長に必要な栄養素や細胞分裂を促進する成長因子（グロースファクター）が含まれており、様々な調整作用を持ち合わせています。成長因子（グロースファクター）は胎児の細胞を各種臓器へと作り替えていく働きをします。

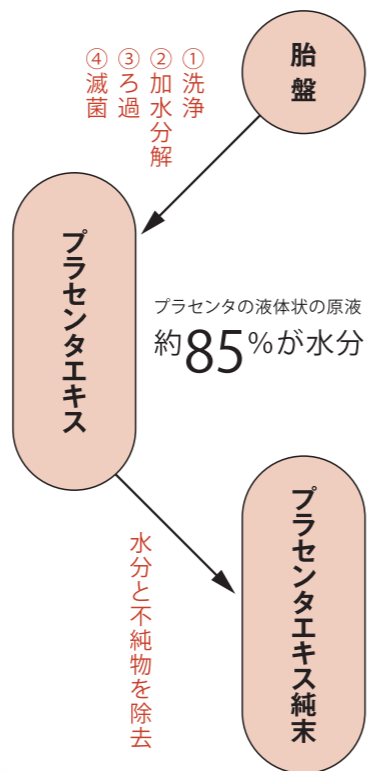
■プラセンタに含まれるもの（一般財団法人日本胎盤臨床医学会HPより）

- 【細胞増殖因子】 人体の様々な細胞を作る因子を含みます。（臓器、骨、皮膚、血管など）
- 【免疫を向上させる成長因子】 免疫細胞や血液を作る、強化する。
- 【豊富な栄養素】 五大栄養素のほか、150種類の栄養素、人間に必要なほとんどの栄養素を含みます。
- 【調整機能】 自律神経・内分泌ホルモン等、血圧など

他の健康食品とは全く異なるモノ。

驚くべきプラセンタの20の薬理作用。プラセンタのお話 吉田健太郎 医師より

- 1 基礎代謝向上作用
- 2 細胞活性化作用
- 3 呼吸促進作用
- 4 血行促進作用
- 5 造血作用
- 6 疲労回復作用
- 7 血圧調節作用
- 8 自律神経調整作用
- 9 ホルモン調整作用
- 10 免疫強化作用
- 11 活性酸素除去作用
- 12 抗突然変異作用
- 13 創傷回復促進作用
- 14 抗炎症作用
- 15 抗アレルギー作用
- 16 体質改善作用
- 17 強肝・解毒作用
- 18 妊婦の乳汁分泌促進作用
- 19 食欲促進作用
- 20 精神安定作用



日本胎盤治療の第一人者 吉田健太郎医師の実績によると、年間延べ5万回のプラセンタ注射を行っているが、重篤な副作用はいまだ1例もありません。プラセンタの注射剤「ラエンネック」は1959年から、「メルスモン」は1956年から40年以上使われていますが、感染症やショックなど重大な副作用は1例も報告されていません。軽微な副作用としては、注射部位の発赤、疼痛、注射後の上腕のだるさ、重たい感じを訴える人もいます。またごくまれに吐き気、全身倦怠感を訴える人もいますが、いずれにしてもすぐに治り、その後は身体全体が軽やかにになり調子が良くなります。

日本胎盤治療の第一人者で

「日本胎盤臨床医学会」初代理事長 吉田健太郎医師のコメント

私は、医師になった時より、薬漬けの医療に疑問を感じておりました。本来あるべき医師の姿を目指し、患者さんの苦痛を楽にさせ、なおかつ効果の高い物はないかと探している時にプラセンタと出会いました。副作用が少なく、様々な栄養・機能性をもつ因子を含み、効果の高いこのプラセンタを一人でも多くの方々に知って頂く事を切に願っております。プラセンタは副作用がほとんど無く、ごなたでも始められます。そして、全身・全科・全年齢に効果を発揮するすばらしいものです。

吉田健太郎（よしだけんたろう）

1950年9月 宮城県仙台市生まれ
74年名古屋大学文学部卒業後、教職を経て
81年千葉大学医学部に再入学。97年吉田クリニック開業。西洋医学を基礎に置きつつも東洋医学や運動療法、温泉療法などを積極的に取り入れ、体に優しい治療形式にとらわれない治療に取り組む。主な著書「胎盤力」「女性の不調を解消するプラセンタパワー」「プラセンタ療法と統合医療」体によさしい実践プラセンタ療法」



プラセンタは、万能薬？

◎特集第一弾【プラセンタ①】……………あなた自身を取りもどす不思議なチカラ、プラセンタ。

